

おしんじゅくの教育

平和宣言都市・環境宣言都市
新宿区

臨時号 平成19年(2007年)2月20日 発行

編集・発行 / 新宿区教育委員会 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎ 3209-1111 <http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/>

特集

確かな学力の育成への取り組み

学校が、授業が変わりました

教育委員会は、平成18年度より、新宿の子どもたちの確かな学力の育成に向け、新たな3つの取り組みを始めました。年間の授業日数の拡充や非常勤講師の増員などにより、学校が変わり、子どもたちの教育環境が変わりました。子どもたちにとって、より授業が分かりやすく、よりきめ細かな指導が行われるようになっています。

今号では、学校における具体的な取り組みの成果と子どもや保護者などが取り組みをどのように評価しているかについて、

て、教育委員会が昨年の9月に実施した調査(注)の結果をもとに、お知らせします。

教育委員会は、これらの調査結果を踏まえ、今後も、確かな学力の育成への取り組みの充実を図り、各学校における特色ある教育活動を推進していきます。

(注) 調査時期：平成18年9月
調査対象：全区立学校、児童(小4・小6)、生徒(中2)、調査児童・生徒の保護者、地域(学校評議員)、教員
※その他の調査結果については、次号の「しんじゅくの教育」で掲載予定

3つの新たな取り組み

- ★年間授業日数の拡充(夏休みの短縮)
- ★確かな学力推進員の派遣(区費負担の非常勤講師の増員)
- ★教員の授業力の向上(授業改善推進員(校長経験者)の派遣)



学校はこんなことに取り組みました

問合せ 教育指導課 ☎(5273)3084

夏休みの短縮により、年間27時間程度の授業時間が増えました。各学校では、増えた時間を利用して、年間を通した新たなカリキュラム編成を行ったり、学校行事や家庭との連携の充実を図るなど、様々な取り組みを行っています。

18年度の主な取り組み

☆年間を通したカリキュラム編成

- ※基礎学力定着のため、国語と算数(数学)の授業時間増
- ※スキルアップや個別指導のための時間の設定
- ※落ち着いて学習を始めるための朝読書の開始
- ※学校図書館活用による読書活動の推進

☆8月25日から9月1日に取り組んだカリキュラム

- ※体育科での水泳の集中指導
- ※基礎学力定着のための特別授業
- ※1学期の基礎・基本の復習
- ※職業・職場体験

☆学校行事や家庭との連携

- ※研究発表会、周年行事のための時間確保
- ※家庭訪問や個人面談の実施
- ※夏休みの早い時期の面談の実施(夏休みの生活や学習についての情報交換)



ちょっぴり早く始まった2学期。友達と会えてうれしいな。

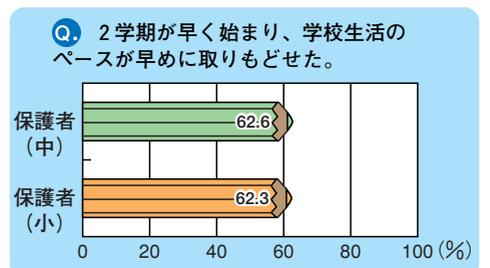
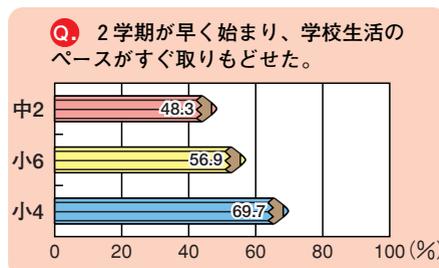
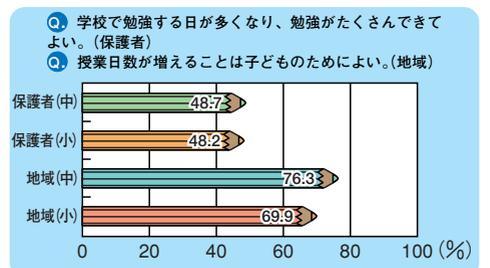
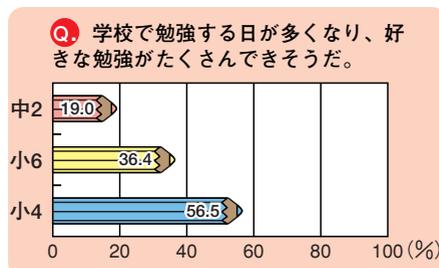
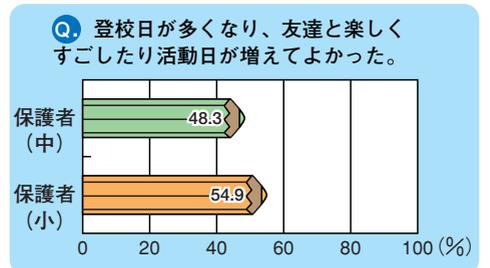
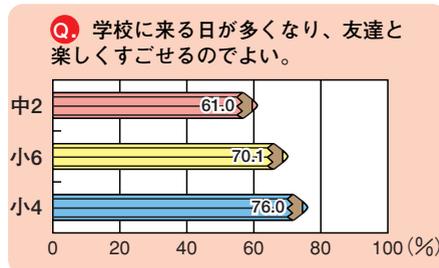
～年間授業日数の拡充(夏休みの短縮)～

子ども、保護者や地域(学校評議員)の声は

子どもは、学校に来る日が多くなったことについて、友達と楽しくすごせる点で概ね肯定的に捉えています。一方、学校で勉強する日が多くなったことを肯定的に捉えている子どもは、小学4年生で5割を超えています。その割合は学年が上がるにつれ低くなっています。同様の質問に対し、保護者は約5割、地域は約7割が肯定的に捉えている結果となりました。また、2学期が早く始まり学校生活のペースがすぐ取りもどせたと感じている割合は、小学4年生で約7割となりましたが、この割合も学年が上がるにつれ低くなっています。

子ども

保護者・地域



よりわかる授業になりました～確かな学力推進員の派遣～

児童・生徒一人ひとりにきめ細かな指導をするため、確かな学力推進員として独自に採用した非常勤講師を全区立小・中学校に1名ずつ派遣しました。

各学校は、学校の実態に合わせて確かな学力推進員の活用を工夫してきました。主な活動内容とその成果はつぎのとおりです。

18年度の主な活動内容

	小学校	中学校
*少人数学習指導(注1)担当	13校	7校
*小1プロブレム(注2)等への対応	6校	0校
*特別に配慮を必要とする児童・生徒指導の担当	7校	5校
*チーム・ティーチング(注3)等	14校	5校

(注1) クラスを複数のグループに分けてより少ない人数で学習する方法
 (注2) 小学校入学時に基本的な生活習慣や集団生活への適応能力が不足しているため、授業に支障がでる問題
 (注3) 複数の教員が分担・協力して指導する方法

取り組みの成果

- *1年生の各クラスの児童が落ち着いて学習に取り組めるようになった。
- *算数、国語においてきめ細かい指導ができ、児童の学力向上につながっている。
- *個に応じた指導法(学習課題別、習熟度別)の工夫ができる。
- *個別指導をすることにより、学習意欲が向上している。
- *いつでも質問できるという安心感がもて、授業中の生徒の質問が増えた。
- *補充学習で意欲的に取り組む生徒が多くなった。
- *学年指導・部活指導等有効に活用ができています。
- *図書指導を担当し、夏休みの推薦図書を全て読んだ児童がいるなど読書への意欲を喚起できた。



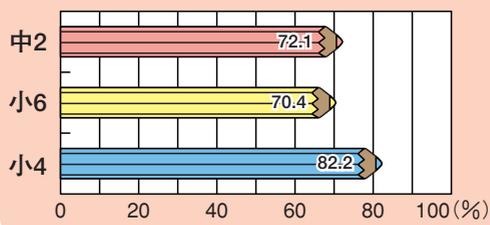
子どもや教員の声は

子どもの意識調査では、「ていねいに教えてくれる」との回答が各学年とも7割を超えています。「勉強がわかりやすくなった」と回答した割合は、小学4年生では7割を超えていますが、学年が上がるにつれ低くなっています。また、クラスを分けた授業について肯定的に捉えている子どもは、各学年とも約5割となりました。

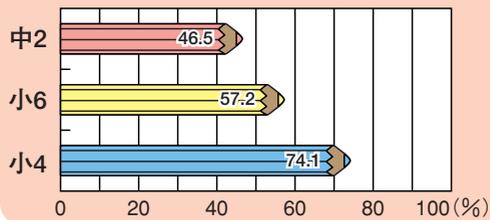
教員は、少人数学習指導の効果が高まる点やチーム・ティーチングなどにより授業改善につながったと評価する回答が8割を超えています。一方、「忙しさの緩和」については、小学校では5割程度、中学校では6割程度の教員が肯定しています。

子ども

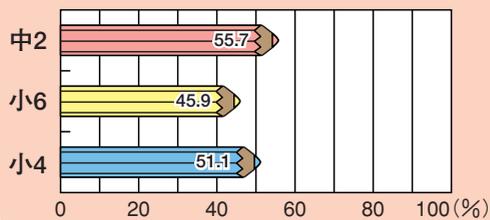
Q. 確かな学力推進員の先生は、ていねいに教えてくれている。



Q. 確かな学力推進員の先生が授業に入ることによって勉強がわかりやすくなった。

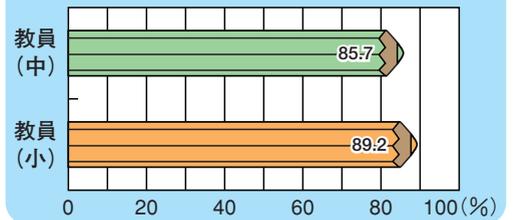


Q. クラスを分けた授業は自分の学習のペースに合っていると感じる。

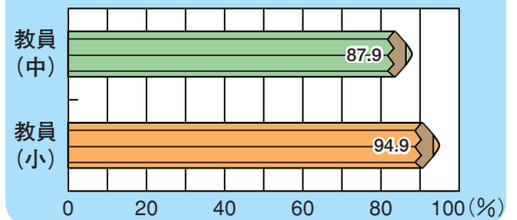


教員

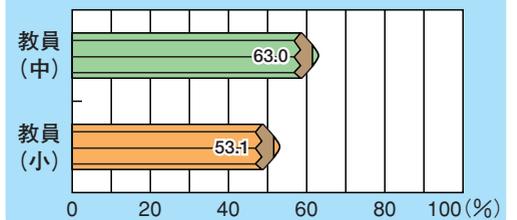
Q. 確かな学力推進員との少人数学習指導は子どもの学習のペースに合っていると感じる。



Q. 確かな学力推進員とチーム・ティーチングの授業を行うと、子どもの理解を高める。



Q. 確かな学力推進員が入ったことで、忙しさが緩和された。



先生はこう変わりました～教員の授業力向上への取り組み～

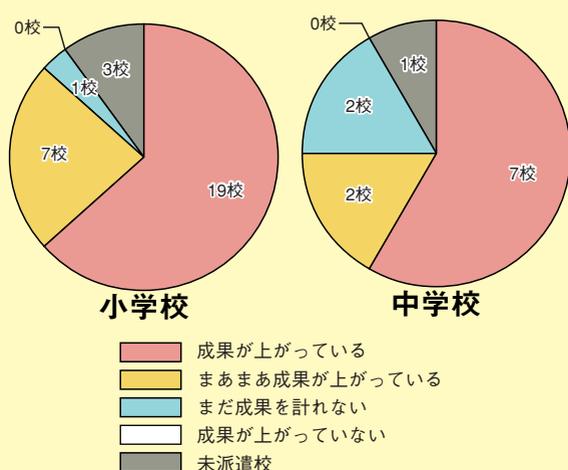
授業力の向上を目指す教員への支援として、授業改善推進員(校長経験者)の派遣を行っています。主に新任の教員及び採用後2、3年目の教員に対して、課題の把握や指導案の作成指導など、次の授業に生かせる具体的なアドバイスをしています。また、新任の教員に対しては、学期ごとにメンタルケアも含めた指導も行っています。

18年9月現在で、授業改善推進員を派遣した学校は、小・中学校(養護学校を含む)42校のうち38校で、のべ155回、82名の教員が指導を受けました。



調査結果では、小・中学校とも派遣を受けたほとんどの学校で、成果が上がっていると回答しています。また、「授業の展開の工夫・発問の工夫」において学んだことが授業に生かされたり、「事前準備・教材研究」に役立つなど、授業改善推進員の実践的な指導が教員の授業力向上につながっています。

Q. 授業改善推進員の成果について



取り組みの成果

- *具体的な指導により、授業展開の工夫、発問の工夫、黒板の書き方の工夫など、学んだことを生かすようになった。
- *授業の事前準備や教材研究に役立っている。
- *より児童・生徒一人ひとりを生かす授業になった。
- *新任教員は適切な指導・助言により、自信をもって研究発表会を行うことができた。
- *教員が、生徒に考えさせる授業を行うように意識するようになった。
- *精神的な不安の解消につながり、教材研究、指導改善等に意欲的に取り組むことができた。
- *経験豊かな教員は、新しい指導法をマスターした。